

ID ^{注1)}	031112	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	---	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	白山山地世界遺産地域の森林生態系保全のためのモニタリング手法の確立と外縁部の森林利用との調和を図るための森林管理に関する研究報告書（平成10～14年度）／ 櫛石山斜面及び泊の平他における蘇苔類調査						発行年月/報告年月	
	2004年		10月		2月			
	資料形式 ^{注2)}						報告書	

調査機関	環境省自然環境局 東北地区自然保護事務所	委託機関	古木達郎(千葉県立中央博物館)
------	----------------------	------	-----------------

調査開始年	1999年	10月	調査期間	1999年	10月	～	2002年	9月
-------	-------	-----	------	-------	-----	---	-------	----

調査頻度 ^{注2)}	—	調査時期 ^{注2)}	—
---------------------	---	---------------------	---

モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 ^{注2)}	ⅡB	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(2)
----------	------------	-------------------	----	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 ^{注3)}	目的・調査手法
------------------------	---------

核心地域 緩衝地域 周辺地域

GPS等の位置データあり



※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

■調査目的
白山山地の核心地域において、地球規模の変化に伴う蘇苔類の生育や生態に与える影響をモニタリングするための手法を確立すると共に、モニタリングするための基礎データの集積にある。また、白山山地の蘇苔類は必ずしも十分に調査されているとは言えないので、本研究では、核心地域以外の地域においても調査を行い、白山山地の蘇苔類の生育や分布状況について、基礎的な資料を充実させることをも目的とした。従って、生態学的な解析よりも基礎資料を充実させ、将来のモニタリングに役立てることを重視した。

■調査方法
①蘇苔類相調査
モニタリングサイト内では、櫛石山山頂、櫛石山南斜面、赤石川、泊の平を調べ、その他の調査地では、黒崎から白山岳山頂に至るルート、櫛石山から赤石川に至るルート、ニツ森北斜面、粕毛川源流部を調査した。出現種をセン類、タイ類、ツノゴケ類に分け、生育標高、生育基物、植生(ブナ林かその他の林か)を示し、調査地ごとに証拠標本を引用した。
②ブナ樹幹根元の地面に発達する蘇苔類群落
地面に生育する蘇苔類の生態において、斜面に発達するブナ林に特徴的な蘇苔類群落として注目した。調査は、櫛石山の尾根近くの斜面に生育するブナを6本選び、生育地の斜面が向いている方角、傾き、蘇苔類群落の形や被度、出現種とその被度を記録し、また、写真として現状を記録した。

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

①蘇苔類相調査
今回の調査では、1999年10月から2002年9月にかけて調査を行い、4地点のモニタリングサイト及び、これまでの未調査地域を調査し、セン類88種、タイ類82種、ツノゴケ類1種の生育を確認した。

②ブナ樹幹根元の地面に発達する蘇苔類群落
12種の生育が認められた。裸地における被度は1調査区を除き、50%以上であった。もっとも多く出現した種はエダウロゴケモドキで、次いで、ショウロウイチゴケであった。
普通、ブナ林の林床は、落ち葉の堆積が厚いために、蘇苔類の生育は比較的少ない。しかし、斜面に生育しているブナの樹幹基部は裸地化し、腐葉土が堆積しておらず、草本類もほとんど生育せず、蘇苔類や藻類が生育していた。このような蘇苔類の群落は、ブナにおいて顕著であり、他で見られない特異な蘇苔類群落が発達していることが今回の調査で明らかになった。これは、今まで報告されたことがない新たな視点であり、今後、研究の発展が期待できる。但し、出現する種については、特記に値する種ではなく、ブナ林には比較的普通に見られるものであった。
今回、その成立要因は調べなかったが、降雨の時の観察では、ブナ樹幹から流れ落ちる降水などの樹幹流が樹幹基部の谷側に集まり、根元に流れて、腐葉土などを流すためであろうと考えられる。すなわち、この群落は、樹幹流の量や質によって大きく左右されることが予想される。従って、長期に群落の消長や構成種の変化をモニタリングすることで、この群落や、ブナ林の林床ばかりでなく、樹幹に生育する蘇苔類への影響が示唆されるであろう。

問い合わせ	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 ――― 《原本(データ)の帰属について》
-------	--

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考